2025
vol. 7
THE KG TIMES
Katoh Gakuen Highschool News
加藤学園高等学校ニュース

進化・深化・新加藤学園躍進！

男女バドミントン部

男子学校対抗3連覇

「新加」藤学園バドミントン部

今年もバドミントン部が県高校総体で飛躍した。男子学校対抗(団体戦)では見事に３連覇を達成した。新人戦での悔しい結果を超えた優勝に大きな成長が見られる。女子ダブルスでは勝又咲陽(GⅢ1・御殿場中)佐々木美羽(PⅢ6・吉原二中)ペアが悲願の初優勝で全国出場を決めた。男子ダブルスの齋藤翔(PⅢ2・桜堤中)瀬戸奏大(SⅢ1・門野中)は、準決勝で勝又悠翔(GⅡ1・高根中)菊田拓哉(PⅠ4・美野里中)との同校対決となったが、３年生の意地で勝利を掴み全国出場を決めた。ダブルスで悔しい思いをした勝又悠翔はシングルスで3年生を退け、見事に優勝し全国への切符を手にした。

素晴らしい結果もさることながら、昨年度の県バドミントン史に残る偉業を残した先輩たちを超えるという意地に、進化の鍵があった。新チームの発足当初はプレッシャーとなっていたものが、新人戦を経て超えるべき「目標」として明確になり、チームとして躍動していった。男子ダブルスの同校対決で見られた３年生の意地や、女子学校対抗では高校から競技を始めたものが多い中、経験者の勝又・佐々木が牽引し、一つでも上のステージに部員を連れていくという気概が上級生の連帯感を強めた。２年生の勝又悠翔もシングルスで上級生の意地をはね退ける強さをみにつけるなど、チーム・個人それぞれの進化があった。また、試合会場で応援する部員の力強い声援や、頼りになるサポートも勝利に繋がったと、顧問も話す。このような一体感がバドミントン部の絆の深化であった。

今後もアップデートをし続ける「新加」藤学園バドミントン部は注目である。

男子シングルス 勝又２年生ながら 優勝！

左から　瀬戸奏大（SⅢ1・門野中）
勝又悠翔（GⅡ1・高根中）

男子ダブルス齊藤・瀬戸は 3年生の意地を見せ 全国へ！

前列左から　勝又咲陽（GⅢ1・御殿場中）　佐々木美羽（PⅢ6・吉原二中）
後列左端　齋藤　翔（PⅢ2・桜堤中）　後列右端　菊田拓哉（PⅠ4・美野里中）

女子ダブルス勝又・佐々木は 悲願の初優勝！

静岡県高等学校総合体育大会 男子団体V8達成！ 柔道部 女子団体第3位！

男子団体８連覇を達成！

静岡県高等学校総合体育大会柔道男子団体が令和７年５月24日、静岡県武道館で行われ、８連覇を達成した。４年連続で同じカードとなった決勝は、静岡学園に２―１。連続優勝記録をさらに伸ばした。互いに譲らず１―１で迎えた大将戦。藤田郁磨（GⅢ２・吉原第二中）が合わせ技で一本を奪い、優勝を決めた。今年１月の新人戦で敗れ、８連覇を阻止された相手にリベンジを果たし、全国大会出場を決めた。また、女子団体も第３位に輝き、東海大会に出場した。

左から
山口楽斗（PⅡ2・豊川中部中）　伊藤彪我（PⅢ5・金目中）
宮田泰成（PⅢ5・拝島中）　藤田郁磨（GⅢ2・吉原第二中）
新屋海勇（PⅢ6・上溝南中）　諸橋剛太（PⅢ6・茅ヶ崎第一中）

個人戦２階級で全国総体出場！

個人戦２階級で優勝！

令和７年５月17日に行われた個人戦での活躍も光った。２階級で優勝。男子60㌔級で小林啓裕（ＰⅢ５・木崎中）、同100㌔超級で諸橋剛太（ＰⅢ６・茅ヶ崎第一中）が、頂点に立ち、全国切符を手にした。また、優勝した２人に加え、準優勝した66㌔級の小崎空（GⅢ２・深川中）、73㌔級の山田琉輝（PⅢ５・尾山台中）、90㌔級の藤田、100㌔級の新屋海勇（PⅢ６・上溝南中）が東海大会に出場した。岡山県で開催された全国総体で、小林はベスト８に輝いた。

左から 小林啓裕（PⅢ5・木崎中）　諸橋剛太（PⅢ6・茅ヶ崎第一中）

チアリーダー部 全国大会出場！

チアリーダー部

全国高等学校ダンスドリル選手権大会2025 東海大会 第２位

この暑い、熱い夏をチーム一丸となって全力で駆け抜ける

2025年６月７日に愛知県名古屋市琵琶島スポーツセンターにて行われた、全国高等学校ダンスドリル選手権大会2025東海大会において、SONG/POM部門Medium編成で第２位を獲得し、全国大会出場を決めた。本大会が３年生の集大成となり、３学年全員で挑戦する最初で最後の全国のステージとなる。

３年生は３名と少ない人数ながら、互いを尊重し合い協力し合いながら、チームをここまで引っ張ってきた。その背中を一番近くで見てきた２年生。ほとんどのメンバーが初心者であったが、約１年間かけて今回の大会曲を３年生とともに大切に育ててきた。４月から新たに加わった個性溢れる１年生。３学年揃ってより一層パワフルになった１曲をぜひ会場で見て頂きたい。最高の一本を踊りきり、見ている人の心を動かすことができるような演技をすることを目標に、この暑い、熱い夏をチーム一丸となって全力で駆け抜けていくだろう。

(なお全国大会は、８月11日～13日に東京都調布市の京王アリーナTOKYOにて行われた)

吹奏楽部 Blue Wings 全国大会出場！

“和とロックの融合” ふじのくにメドレー

第49回全国高等学校総合文化祭香川大会が７月に開幕し、本校の吹奏楽部「Blue Wings」が出場した。晴れやかな全国の舞台に、代替わりをして新しくなった「Blue Wings」が静岡県の代表として臨み、先輩たちの意志を引き継いだ。

前島龍ノ介部長(PⅢ6・函南東中)は大会前に「この大会への出場は、現在の部員はもちろん、昨年度卒業した先輩方と一緒に勝ち取ったものです。だからこそ、県代表としての誇りをもって全力で演技します。」と力強く語ってくれた。

今年のマーチングショーのテーマは “和とロックの融合”。「Blue Wings」は静岡県にまつわる楽曲を織り交ぜた「ふじのくにメドレー」を演奏し、会場を大いに盛り上げた。

今回の全国大会での経験を活かし、９月23日に控えたマーチングの県大会でも躍動してくれることを期待したい。

囲碁・将棋部（太田拳斗）

囲碁・将棋部

静岡県新人十傑戦 第2位 全国総文祭出場！

太田拳斗（αⅢ1・富岡中出身）

静岡県代表として出場

令和７年２月８日、科学技術高校にて開催された静岡県高校囲碁新人十傑戦大会において、男子Aクラスで太田拳斗が決勝まで進出した。決勝戦では惜しくも敗れてしまったが、堂々の２位という素晴らしい成績を収め、静岡県代表として令和７年度全国総合文化祭の団体戦メンバーに選出された。

その全国総合文化祭は、令和７年７月26日、27日に香川県スポーツセンターまんのうで開催され、太田は団体戦の主将として６試合を戦い、５勝１負という好成績を収めた。強豪ひしめく中での大健闘であった（静岡県チームとしては３勝３負で22位）。

太田にとって囲碁は高校から始めた競技であったが、驚くべき成長を遂げ、この２年間で数々の大会にて優秀な成績を残した。この大会をもって引退となるが、その勇姿を見てきた後輩たちが、今後さらに活躍してくれることを期待したい。

東海大会出場

剣道部

大村優希奈　東海大会出場！

第72回東海高校総合体育大会剣道競技女子個人戦が令和７年６月21日に三重県にある西野公園体育館で行われ、大村優希奈(GⅡ1・今沢中)がベスト16に入った。本生徒は６月１日に静岡県武道館にて行われた令和７年度静岡県高等学校総合体育大会剣道競技において第３位を獲得している。

大村は「県予選の結果は嬉しさもあるけれど信じられない気持ちが大きかった。東海大会では、今持っている力を全力で出しつつも楽しもうと思って挑んだ。ベスト16という結果は嬉しかったけれど、もっと行けたのではという気持ちもある」と話しており、今後が楽しみである。

11月に行われる新人戦では、個人団体ともに東部優勝、県ベスト８入りをし東海大会出場を目指す。「自分じゃない自分になって目標を果たしたい」とも話してくれた。来年のインターハイの目標は「目指すは全国」。剣道部の今後一層の活躍に期待持てる。

大村優希奈（GⅡ1・今沢中）

東海総体出場

駅伝部

３位入賞　東海総体への出場を果たす！

令和７年５月25日、エコパスタジアムにて静岡県高等学校陸上競技対校選手権大会が開催された。男子5000mで赤坂歩哉（ＰⅢ２・富士根南中）が終始先頭集団でレースを進め、最後は粘り切り３位入賞し、東海総体への出場を果たした。一年次から駅伝で区間賞を獲得し、個人種目でも着実に記録を伸ばし続けるなど、常にチームを牽引してきたエースもいよいよ最終学年を迎えた。11月の静岡県高校駅伝では集大成となる結果を残せるよう、引き続き応援していきたい。

赤坂歩哉（ＰⅢ２・富士根南中）

暁野祭

後夜祭にランタンフェスティバル！

令和７年６月１日に暁野文化の部が開催された。３年生の模擬店では、様々な種類の店舗が並び、大いに賑わった。仮装コンテストでは、１、２ 年生が参加したが趣向を凝らしたクオリティの高い仮装が多くみられ、盛り上がった。優勝したクラスはＰⅠ１ でテーマは「今日から俺は」でした。今年度は生徒会企画で後夜祭にランタンフェスティバルを行い、後夜祭でも盛り上げた。６月４日に体育の部が開催予定でしたが、悪天候の為、順延となり翌日５日に開催された。体育祭では今年度より新競技のフライングゲットが行われた。この競技は難易度が高く生徒たちは悪戦苦闘しながら一所懸命取り組んだ。今年度の優勝学年は３年生で高校生活最後の暁野祭を見事に飾った。

応援団

仲間を鼓舞する“もうひとつの主役”

試合の熱気が高まる中、スタンドで声を張り上げる姿がある。彼らは応援団一勝利を信じ、仲間を鼓舞する “もうひとつの主役” だ。応援団の活動は、単なる掛け声にとどまらない。彼らの存在は、選手たちの背中を押し、観客の心を一つにする力を持っている。選手が踏み出す一歩、仲間を鼓舞する拍手、校歌に込める想い―そのすべてを支えているのが応援団だ。彼らの声は、時に挫けそうな瞬間に立ち上がる勇気を与え、勝敗を越えて人の心に響く絆を生み出している。令和７年６月22日、グランシップにて第14回高等学校応援団フェスティバルが開催された。本校の応援団も参加し、見ている人たちの心を揺さぶるような演舞を披露してくれた。私たちが忘れてはいけないのは、「応援される側」だけでなく、「応援する側」にも情熱があり、努力があるということだ。応援団の姿勢は、日々を懸命に生きる者たちへのエールそのもの。その姿は、いつも見えないところで誰かを支えている人々への称賛と重なる。彼らが振る旗は希望であり、響かせる声は絆だ。そしてその一瞬の声援が、誰かの人生を変えることだってある。今日も彼らは声を張る。「仲間を信じて、一緒に戦う」という想いを胸に。

ワクワク! カトガワ!